

「算数」(グループ学習) 学習指導案

1. 日時 令和6年9月17日(火) 第3時限(10:35~11:15)
2. 場所 小学部 教室
3. 学部・学年・組 小学部
4. 単元(題材)名 「かぞえよう・くらべよう」(数量・測定)
5. 単元(題材)目標

知識・技能

- ・数の概念の理解とその表し方についての学習を通して、数字と数量の関係を理解する。(数量)
- ・二つの具体物に注目し、高さや重さの違いがわかる。(測定)

思考力・判断力・表現力

- ・身の回りのものに注目し、数を数える。(数量)
- ・様々な高さや重さのものに触れ、一方を基準に他方の高さや重さを比べる。(測定)

学びに向かう力・人間性

- ・数量に関心を持ち、よさを感じながら学ぼうとする。(数量)
- ・高さや重さの測定に興味を持ち、学習内容に活かそうとする。(測定)

6. 児童観

当学習グループは、自閉症とダウン症の児童が在籍している。週に1回、40分間、算数の学習に取り組んでいる。

学習に取り組む際には、口頭指示のみではなく、視覚支援を活用することで、活動内容やルールを理解できる児童が多い。

授業の様子としては、興味・関心の個人差があり、学習の導入の時点で消極的な様子になる児童もいる。普段の様子を観察し、児童が休み時間にも取り組んでいる身近な教材を設定することで、積極的に活動に取り組むことができる。

具体物を操作したり、対話したりしながらじっくりと学ぶ活動を設定することで、工夫する姿や、積極的に発言する姿が見られるようになる。

タブレット端末を見ると、動画視聴アプリケーションが見たい気持ちが強くなり、自己調整が難しい児童もいる。そのため、学習アプリケーションを使った学習は、自由時間に取り組むことよりも、授業などの設定された場面の方が、集中して取り組める。授業では、あらかじめ、タブレット端末の使い方を確かめたり、学習で使用するアプリケーションのみが使えるよう設定したりすることで、落ち着いて参加することができる。

7. 指導観

算数1段階と2段階の学習に取り組んでいる。得意な数の分野については、3段階の内容に取り組むこともある。

数の分野では、ばらばらに配置された1から10の数字が書いてあるカードの上を、1から順番に数唱しながら歩く活動に取り組んだ。数唱の活動に、どの児童も積極的に取り組み、数字のカードの配置を変えて取り組んだり、10以上の数に取り組みたいことを伝えて挑戦したりするなど、工夫して活動

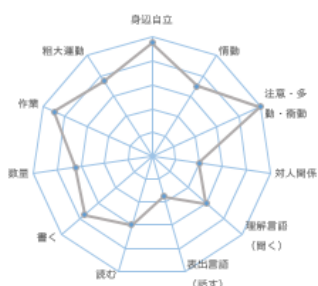
に取り組む様子が見られた。指さししながら具体物の個数を数えることや、数詞と具体物の数の対応は難しい児童もいるため、数に対して積極的な様子を大切に、興味関心をもって取り組める数量の学習活動を設定したい。

測定の分野では、2つの具体物やイラストを比べ、高い・低い・長い・短いを判断する活動に取り組んだ。イラストを見て比べる学習は、どの児童も繰り返し学習することで理解することができた。具体物を使った学習では、机上に収まる大きさのものの測定に、教師と一緒に考えながら取り組むことができる。自分の身幅を少し超える具体物の測定は、離れたところから見てみたり、測ったテープを並べるなどの視覚支援があったりすると、理解ができる児童もいる。イラストで2つのものを比べる活動はすぐ理解ができ、積極的であったが、具体物を使って測定する活動は難しさからか、消極的な児童もいた。そのため、児童たちが興味をもち、積極的に操作することができるゲーム性のある活動を取り入れたり、効果的に視覚支援を活用したりしながら、高い・低い・重い・軽いの測定ができる学習活動を設定したい。

今回の授業では、測定の分野において難しさを感じている様子の児童も、「できた」と達成感を感じ自信に繋がるようにしたい。また、楽しんで取り組んでいる数の分野においては、「～してみたい」と積極的に工夫したり、探求したりする気持ちを育てたい。

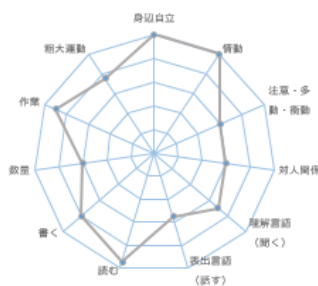
【A2 レーダーチャートより 児童の実態】

A



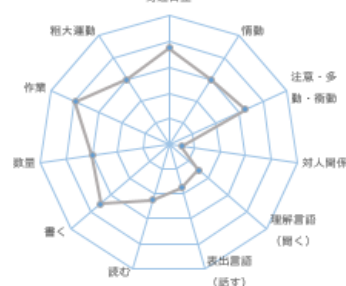
アセスメントシートや諸検査からわかる得意・課題 (チャートの凸と凹)		
得意凸 支援に活かす・伸ばす	注意・多動・衝動性	作業
課題凹 支援の検討	表出言語 (話す)	対人関係

B



アセスメントシートや諸検査からわかる得意・課題 (チャートの凸と凹)		
得意凸 支援に活かす・伸ばす	読む	身辺自立
課題凹 支援の検討	表出言語 (話す)	数量

C



アセスメントシートや諸検査からわかる得意・課題 (チャートの凸と凹)		
得意凸 支援に活かす・伸ばす	書く	作業
課題凹 支援の検討	対人関係	理解言語 (聞く)

8. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 数字に対応する数量のカードをとることができる。</p> <p>② 缶の高さや重さの違いがわかり、高さや重さごとにわけることができる。</p>	<p>① とったカードの枚数を数えている。</p> <p>② 積んだ缶の様々な高さや重さを比べ、カードや言葉で伝えている。</p>	<p>① 素早く数えてカードをとろうとする。</p> <p>② より高く缶を積もうと工夫しようとする。</p>

9. 単元の指導と評価の計画（全13時間、本時は第3次2時）

次	時	学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1～3	<p>①数字カルタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～10の数字が書いてあるカードの中から、教師が指定した数字のカードをとる。 <p>②缶積みゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に缶を高く積もうとする。 	<p>(ねらい)</p> <p>①ゲームに取り組み、数字に親しむ。</p> <p>②高いがわかる。 (個に応じた支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマーを活用し、時間を視覚的に示す。 ・活動内容がわかりやすいよう、はじめは傍で手本を示す。 	<p>・A① (行動観察)</p>
	4～6	<p>①数字カルタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～10の数字と数量が書いてあるカードの中から教師が指定した数のカードをとる。 <p>②缶積みゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引いて出た紙の数の缶を積む。 ・積んだ缶を高く積もうとする。 <p>③わくわくタイム(個別学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使用し、『とけいパズル』『ナンバータッチ』『1・2・3』のアプリケーションを使った学習に取り組む。 	<p>(ねらい)</p> <p>①数字に親しみながら、10までの数の個数を、指などを使って数える。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いがわかる。 ・数詞とものを対応させて、正しく数を数える。 <p>③様々なアプリケーションの使い方を知り、数字や数量の学習に取り組む。 (個に応じた支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマーを活用し、時間を視覚的に伝える。 ・適宜、カードを活用して視覚的に示す。 ・タブレット端末の使い方をあらかじめ伝える。 	<p>A①② (行動観察)</p>

2	1～3	<p>①数字カルタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～15の数字と数量が書いてあるカードの中から、教師が指定した数のカードをとる。 ・とったカードの枚数を数える。 ・チャレンジタイムでは、教師が指定した2つの数のカードをとる。 <p>②缶積みゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・缶を、高い・低い・重い・軽いで分類する。 ・引いて出た数の缶を積む。 ・積んだ缶の高いものと低いものを比べる。 ・積んだ缶をかごに入れて持ち上げ、重さを比べる。 <p>③わくわくタイム(個別学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使用し、「とけいパズル」「ナンバータッチ」「1・2・3」のアプリケーションの中から興味をもった学習に取り組む。 	<p>(ねらい)</p> <p>①・15までの数を数える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つずつカードの枚数を数える。 <p>②・高い・低い・重い・軽いがわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数詞とものを対応させて、正しく数を数える。 <p>③自分の興味があるアプリケーションを使った学習内容を知り、意欲的に数の学習に取り組む。</p> <p>(個に応じた支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマーを活用し、時間を視覚的に伝える。 ・適宜、カードを活用して視覚的に示す。 ・必要に応じて、タブレット端末の使い方をあらかじめ伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A②(行動観察) ・B①②(行動観察)
3	1～4 (本時は2時)	<p>①数字カルタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数を言う人(読み手)と、カルタをとる人でわかる。 ・数を言う人(読み手)は、とるカードの数を言う。カルタをとる人は、言われたカードをとる。 ・とったカードの枚数を数える。 <p>②缶積みゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂や水など選んだものを缶に詰め、重い缶をつくる。詰めたものによって、重さが違うことを知る。 ・今までの缶積みゲームの写真を見て、1番高く積んだ缶の種類を知る。 ・高い・低い・重い・軽いを組み合わせ、どのように積んだら高く積めるかを考えようとする。 <p>③わくわくタイム(個別学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使用し、選んだ学習に取り組む。 	<p>(ねらい)</p> <p>①・友だちとかかわりながら、数を数える。</p> <p>②・体験を通して、重さがわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重い・軽い・高い・低いを組み合わせを工夫し、高く缶を積もうとする。 <p>③自分のしたい数の学習を教師に伝え、意欲的に学習に取り組む。</p> <p>(個に応じた支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマーを活用し、時間を視覚的に伝える。 ・適宜、カードを活用して視覚的に示す。 ・試行錯誤できる時間を確保する。 ・必要に応じて、タブレット端末の使い方をあらかじめ伝える。 	<p>C①②(行動観察)</p>

10. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・友だちとのゲームを通して、意欲的に数を数えようとする。
- ・試行錯誤しながら缶を積み、高く積もうとする。

(2) 本時の評価規準

- ・友だちに数を伝えたり、友だちの言葉を聞いて、数のカードをとったりすることができたか。
- ・高く缶を積むために、様々な積み方を試したり、繰り返し積もうと挑戦したりすることができたか。

(3) 本時の ICT 活用のポイント（活用のねらい、工夫する点）

①数字カルタ

- ・タイマーを活用する。
- ・視覚的に時間をとらえやすいことで、活動内容の理解につなげたい。

②缶積みゲーム

- ・タイマーとカメラ機能を活用する。
- ・写真を撮ることで、学習過程を保存、振り返りしやすいようにする。

③ 個別学習

- ・学習アプリケーションとタイマーを使用する。
- ・操作が簡単なことによって学習意欲を高めると共に、個に応じた学習ができること、何度でもやり直しができること、即時評価ができることを活用し、学習内容の理解につなげる。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
5分 導入	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・今日することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日することを、電子黒板に映し、視覚的に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に注目し、学習の見通しをもつことができたか。
35分 展開	<p>①数字カルタ(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルタをとる人は、2つの難易度のカードのなかから、どちらに取り組みのかを選ぶ。 ・数を言う人(読み手)は、皆がとるカードの数を言う。 ・カルタをとる人は、言われた数のカードを、タイマーが終わるまでにとる。とったカードはかごに入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数字の書いたカードと数量が書いたカードを用意し、児童がどちらに取り組みか選択できるようにする。 ・活動時間が視覚的に伝わるようタイマーを活用する。 ・活動内容がわかるよう、とったカードはかごに入れる等、構造化をする。 ・意欲的に友だちとゲームに取り組めるよう、楽しい雰囲気づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに正しく数を伝えることができたか。 ・友だちが伝えた数のカードを正しくとることができたか。 ・素早く数を数えてカードをとろうとすることができたか。C①

	<ul style="list-style-type: none"> ・とったカードの枚数を数える。 ・カードをかごに入れて片付けをする。 <p>②缶積みゲーム(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動内容の写真を見て、振り返る。 ・それぞれの場所で、高い・低い・重い・軽い缶を使い、より高く積もうと缶積みをする。タイマーが終わるまで取り組む。 ・かごに缶を片付ける。 ・電子黒板に映った写真を見ながら、それぞれが積んだ缶について振り返る。 <p>③わくわくタイム(個別学習)(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日取り組む学習を選ぶ。 ・タイマーが終わるまで、学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一枚ずつ一緒にゆっくりと数える。 ・前回の振り返りがしやすいよう、写真で視覚的に示す。 ・活動内容がわかるよう、缶の場所や積む場所、高さを視覚的に示し、構造化をする。 ・積んでいる様子の写真を撮り、振り返りで活用できるようにする。 ・電子黒板に書き込めるようにする。 ・今日の学習が選びやすいよう、必要に応じて、カードを示す。 ・活動時間がわかりやすいよう、タイマーで視覚的に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードの枚数を一枚ずつ数えることができたか。 ・試行錯誤しながら、缶を積むことができたか。C②。 ・電子黒板に注目し、振り返りができたか。 ・したい学習を選び、積極的に数の学習に取り組むことができたか。
5分まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり <p>カードを使いながら、今日の学習について振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りがしやすいよう、カードを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを使って今日の活動の感想を伝えることができたか。